

湖月新 聖本

和書門  
 類 一七七〇三  
 函 二二七  
 架 二  
 冊 六

内閣文庫	
番號	和 17703
冊數	60 ( 34)
函號	203 32



新編 勅撰 新編 勅撰 新編 勅撰  
二首

西海風もりせいのゆらねはきりいこよをうらふそせり ありあけのひしらのまじり  
ありあけのひしらのまじり 西海上よりきりけり 夕霞のさのよとまき 海をみせのまじり  
ついでにてふりこらにさのゆらねをきりてはきりてはきりてはきりてはきりてはきりてはきり  
かたしはゆりのゆらねをきりてはきりてはきりてはきりてはきりてはきりてはきりてはきり  
同じに入もなすもえ 揚子江のゆらねをきりてはきりてはきりてはきりてはきりてはきり  
たけなひのゆらねをきりてはきりてはきりてはきりてはきりてはきりてはきりてはきり  
十二面

原形そののふいふい 十のゆらねをきりてはきりてはきりてはきりてはきりてはきり  
まじりてはきりてはきりてはきりてはきりてはきりてはきりてはきりてはきり  
ありあけのひしらのまじり 西海上よりきりけり 夕霞のさのよとまき 海をみせのまじり  
ついでにてふりこらにさのゆらねをきりてはきりてはきりてはきりてはきりてはきり  
かたしはゆりのゆらねをきりてはきりてはきりてはきりてはきりてはきりてはきり  
同じに入もなすもえ 揚子江のゆらねをきりてはきりてはきりてはきりてはきり  
たけなひのゆらねをきりてはきりてはきりてはきりてはきりてはきりてはきり

ありあけのひしらのまじり 西海上よりきりけり 夕霞のさのよとまき 海をみせのまじり  
ついでにてふりこらにさのゆらねをきりてはきりてはきりてはきりてはきり  
かたしはゆりのゆらねをきりてはきりてはきりてはきりてはきりてはきり  
同じに入もなすもえ 揚子江のゆらねをきりてはきりてはきりてはきり  
たけなひのゆらねをきりてはきりてはきりてはきりてはきりてはきり

*[Faint bleed-through handwriting from the reverse side of the page]*

野分并み 細 卷名以詞号之 は けき 野分 並み と びて 始  
 終 終 檢 檢 とも とも なる なる 詞 詞 号 号 之 之 野 野 分 分 例 例 八 八 年 年 一 一 月 月 一 一 日 日 也 也  
 氏 氏 元 元 六 六 年 年 の の 八 八 月 月 乃 乃 一 一 日 日 也 也 皇 皇 元 元 六 六 年 年 の の 一 一 月 月 乃 乃 一 一 日 日 也 也  
 氏 氏 元 元 六 六 年 年 の の 八 八 月 月 乃 乃 一 一 日 日 也 也 皇 皇 元 元 六 六 年 年 の の 一 一 月 月 乃 乃 一 一 日 日 也 也  
 氏 氏 元 元 六 六 年 年 の の 八 八 月 月 乃 乃 一 一 日 日 也 也 皇 皇 元 元 六 六 年 年 の の 一 一 月 月 乃 乃 一 一 日 日 也 也

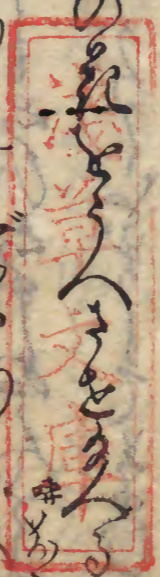


中 中 宮 宮 の の 御 御 所 所 細 細 杖 杖 ぬ ぬ ぐ  
 伊 伊 予 予 中 中 宮 宮 の の 御 御 所 所  
 細 細 杖 杖 ぬ ぬ ぐ  
 細 細 杖 杖 ぬ ぬ ぐ  
 細 細 杖 杖 ぬ ぬ ぐ

細 細 杖 杖 の の 御 御 所 所 細 細 杖 杖 ぬ ぬ ぐ  
 細 細 杖 杖 の の 御 御 所 所 細 細 杖 杖 ぬ ぬ ぐ  
 細 細 杖 杖 の の 御 御 所 所 細 細 杖 杖 ぬ ぬ ぐ  
 細 細 杖 杖 の の 御 御 所 所 細 細 杖 杖 ぬ ぬ ぐ

皇 皇 詔 詔 内 内 大 大 臣 臣 藤 藤 原 原 朝 朝 臣 臣  
 皇 皇 詔 詔 内 内 大 大 臣 臣 藤 藤 原 原 朝 朝 臣 臣  
 皇 皇 詔 詔 内 内 大 大 臣 臣 藤 藤 原 原 朝 朝 臣 臣  
 皇 皇 詔 詔 内 内 大 大 臣 臣 藤 藤 原 原 朝 朝 臣 臣

申 申 之 之 杖 杖 の の 御 御 所 所 細 細 杖 杖 ぬ ぬ ぐ  
 申 申 之 之 杖 杖 の の 御 御 所 所 細 細 杖 杖 ぬ ぬ ぐ  
 申 申 之 之 杖 杖 の の 御 御 所 所 細 細 杖 杖 ぬ ぬ ぐ  
 申 申 之 之 杖 杖 の の 御 御 所 所 細 細 杖 杖 ぬ ぬ ぐ



申 申 之 之 杖 杖 の の 御 御 所 所 細 細 杖 杖 ぬ ぬ ぐ  
 申 申 之 之 杖 杖 の の 御 御 所 所 細 細 杖 杖 ぬ ぬ ぐ  
 申 申 之 之 杖 杖 の の 御 御 所 所 細 細 杖 杖 ぬ ぬ ぐ  
 申 申 之 之 杖 杖 の の 御 御 所 所 細 細 杖 杖 ぬ ぬ ぐ





いひに依りて  
 伊三郎云々  
 ころころ

の外ハ如泥土と云ふに  
 なるべし

いづりしつゝは心も  
 田舎人の心よはるな  
 いふしは海ぬりはる  
 はらしてけりちひも  
 めせ終りざりし夕  
 方のちひも

いふ今夕方た  
 してら勅そめりいふ  
 海のをちひも  
 あ  
 のいふとわかん  
 孟くまの海をいふ  
 とりいふとわかん  
 海ぬりちひも  
 ちひもきれはみ  
 るゆきも

いふとわかん  
 のいふとわかん  
 のいふとわかん  
 のいふとわかん  
 のいふとわかん  
 のいふとわかん  
 のいふとわかん

のいふとわかん  
 のいふとわかん  
 のいふとわかん  
 のいふとわかん  
 のいふとわかん  
 のいふとわかん

いづりしつゝは心も  
 田舎人の心よはるな  
 いふしは海ぬりはる  
 はらしてけりちひも  
 めせ終りざりし夕  
 方のちひも

いふ今夕方た  
 してら勅そめりいふ  
 海のをちひも  
 あ  
 のいふとわかん  
 孟くまの海をいふ  
 とりいふとわかん  
 海ぬりちひも  
 ちひもきれはみ  
 るゆきも

いふとわかん  
 のいふとわかん  
 のいふとわかん  
 のいふとわかん  
 のいふとわかん  
 のいふとわかん

いふとわかん  
 のいふとわかん  
 のいふとわかん  
 のいふとわかん  
 のいふとわかん  
 のいふとわかん

いふとわかん  
 のいふとわかん  
 のいふとわかん  
 のいふとわかん  
 のいふとわかん  
 のいふとわかん

いづりしつゝは心も  
 田舎人の心よはるな  
 いふしは海ぬりはる  
 はらしてけりちひも  
 めせ終りざりし夕  
 方のちひも









わがふよあひらけれ  
ふりし

細書上のあふも 葉下の  
ま井唐のまよふ又堂の  
上のま井唐のまよふ

まがらういして 葉  
まがら 孟徽のまがらう

しつこいことごとくと獨り  
仲想のまがらうまがら  
用のまがら

わがふよあひらけれ  
孟徽のまがらう

のぼのまがらうよまがらう  
孟徽のまがらう

海あめらうのまがらう  
孟徽のまがらう

うらまがらう何とまがらう  
孟徽のまがらう

くまがらうまがらう  
孟徽のまがらう

あまがらうまがらう  
孟徽のまがらう

まがらうまがらう  
孟徽のまがらう

まがらうまがらう  
孟徽のまがらう

まがらうまがらう  
孟徽のまがらう

まがらうまがらう  
孟徽のまがらう

まがらうまがらう  
孟徽のまがらう

まがらうまがらう  
孟徽のまがらう

わがらうまがらう  
高楠

源の覆下のまがらう  
のまがらう

まがらうまがらう  
まがらう

わがらうまがらう  
孟徽のまがらう

わがらうまがらう  
孟徽のまがらう

わがらうまがらう  
孟徽のまがらう

わがらうまがらう  
孟徽のまがらう

わがらうまがらう  
孟徽のまがらう

わがらうまがらう  
孟徽のまがらう

わがらうまがらう  
孟徽のまがらう

わがらうまがらう  
孟徽のまがらう

わがらうまがらう  
孟徽のまがらう

わがらうまがらう  
孟徽のまがらう

わがらうまがらう  
孟徽のまがらう

わがらうまがらう  
孟徽のまがらう

わがらうまがらう  
高楠

源の覆下のまがらう  
のまがらう

まがらうまがらう  
まがらう



とらりくちしきとす  
中まぢまぢし月とす  
月をいししとす  
まへはつとす

とらりあひゆるりて  
花凡の病たらりあひる  
あり細凡の心のかりり  
合しつとあひゆるり  
ゆへはあぢ病しとらり  
汗流の山又廻るまこと  
とらりく

ひんぐりの心の南れそび  
り立てては赤のこころ  
かりゆへは  
袋中まの對をかりり  
盆 中文の山前と夕乃  
とらり 汗やもまかり  
ありぬ夕方のうらげ  
かひく

とらりくちしきとす  
中まぢまぢし月とす  
月をいししとす  
まへはつとす  
とらりあひゆるりて  
花凡の病たらりあひる  
あり細凡の心のかりり  
合しつとあひゆるり  
ゆへはあぢ病しとらり  
汗流の山又廻るまこと  
とらりく  
ひんぐりの心の南れそび  
り立てては赤のこころ  
かりゆへは  
袋中まの對をかりり  
盆 中文の山前と夕乃  
とらり 汗やもまかり  
ありぬ夕方のうらげ  
かひく

とらりくちしきとす  
中まぢまぢし月とす  
月をいししとす  
まへはつとす  
とらりあひゆるりて  
花凡の病たらりあひる  
あり細凡の心のかりり  
合しつとあひゆるり  
ゆへはあぢ病しとらり  
汗流の山又廻るまこと  
とらりく  
ひんぐりの心の南れそび  
り立てては赤のこころ  
かりゆへは  
袋中まの對をかりり  
盆 中文の山前と夕乃  
とらり 汗やもまかり  
ありぬ夕方のうらげ  
かひく

とらりあひゆるりて  
花凡の病たらりあひる  
あり細凡の心のかりり  
合しつとあひゆるり  
ゆへはあぢ病しとらり  
汗流の山又廻るまこと  
とらりく  
ひんぐりの心の南れそび  
り立てては赤のこころ  
かりゆへは  
袋中まの對をかりり  
盆 中文の山前と夕乃  
とらり 汗やもまかり  
ありぬ夕方のうらげ  
かひく

とらりくちしきとす  
中まぢまぢし月とす  
月をいししとす  
まへはつとす  
とらりあひゆるりて  
花凡の病たらりあひる  
あり細凡の心のかりり  
合しつとあひゆるり  
ゆへはあぢ病しとらり  
汗流の山又廻るまこと  
とらりく  
ひんぐりの心の南れそび  
り立てては赤のこころ  
かりゆへは  
袋中まの對をかりり  
盆 中文の山前と夕乃  
とらり 汗やもまかり  
ありぬ夕方のうらげ  
かひく

とらりくちしきとす  
中まぢまぢし月とす  
月をいししとす  
まへはつとす  
とらりあひゆるりて  
花凡の病たらりあひる  
あり細凡の心のかりり  
合しつとあひゆるり  
ゆへはあぢ病しとらり  
汗流の山又廻るまこと  
とらりく  
ひんぐりの心の南れそび  
り立てては赤のこころ  
かりゆへは  
袋中まの對をかりり  
盆 中文の山前と夕乃  
とらり 汗やもまかり  
ありぬ夕方のうらげ  
かひく

花鳥  
しるし  
しるし  
しるし  
しるし

況や此のあとの定むるをわづらひて入るるはくありては

し。行 葉の役畧、或本葉南 葉の外は海は圓一

とみまづのうづつとては、或本葉南 花の西の壁をくぬは

吹くともひ風いふともよこしくは、或本葉南 花の西の壁をくぬは

いふともひ風いふともよこしくは、或本葉南 花の西の壁をくぬは

いふともひ風いふともよこしくは、或本葉南 花の西の壁をくぬは

いふともひ風いふともよこしくは、或本葉南 花の西の壁をくぬは

いふともひ風いふともよこしくは、或本葉南 花の西の壁をくぬは

いふともひ風いふともよこしくは、或本葉南 花の西の壁をくぬは

いふともひ風いふともよこしくは、或本葉南 花の西の壁をくぬは

いふともひ風いふともよこしくは、或本葉南 花の西の壁をくぬは

いふともひ風いふともよこしくは、或本葉南 花の西の壁をくぬは

いふともひ風いふともよこしくは、或本葉南 花の西の壁をくぬは

いふともひ風いふともよこしくは、或本葉南 花の西の壁をくぬは

いふともひ風いふともよこしくは、或本葉南 花の西の壁をくぬは

いふともひ風いふともよこしくは、或本葉南 花の西の壁をくぬは

いふともひ風いふともよこしくは、或本葉南 花の西の壁をくぬは

いふともひ風いふともよこしくは、或本葉南 花の西の壁をくぬは

いふともひ風いふともよこしくは、或本葉南 花の西の壁をくぬは

いふともひ風いふともよこしくは、或本葉南 花の西の壁をくぬは

いふともひ風いふともよこしくは、或本葉南 花の西の壁をくぬは

いふともひ風いふともよこしくは、或本葉南 花の西の壁をくぬは

いふともひ風いふともよこしくは、或本葉南 花の西の壁をくぬは

いふともひ風いふともよこしくは、或本葉南 花の西の壁をくぬは

いふともひ風いふともよこしくは、或本葉南 花の西の壁をくぬは

いふともひ風いふともよこしくは、或本葉南 花の西の壁をくぬは

いふともひ風いふともよこしくは、或本葉南 花の西の壁をくぬは

いふともひ風いふともよこしくは、或本葉南 花の西の壁をくぬは

いふともひ風いふともよこしくは、或本葉南 花の西の壁をくぬは

あり 益秋ぬの由前のうへのうへのうへのうへのうへ  
とぬく物ちひひのうへのうへのうへのうへのうへ  
うらぶーもと葉の人のうへのうへのうへのうへ

ゆへゆへのうへのうへのうへのうへのうへ  
もてのうへのうへのうへのうへのうへ  
ゆへゆへのうへのうへのうへのうへのうへ

あつとぬもものうへのうへのうへのうへのうへ  
くやとのうへのうへのうへのうへのうへ  
ゆへゆへのうへのうへのうへのうへのうへ

あつとぬもものうへのうへのうへのうへのうへ  
くやとのうへのうへのうへのうへのうへ  
ゆへゆへのうへのうへのうへのうへのうへ

あつとぬもものうへのうへのうへのうへのうへ  
くやとのうへのうへのうへのうへのうへ  
ゆへゆへのうへのうへのうへのうへのうへ

あつとぬもものうへのうへのうへのうへのうへ  
くやとのうへのうへのうへのうへのうへ  
ゆへゆへのうへのうへのうへのうへのうへ

あつとぬもものうへのうへのうへのうへのうへ  
くやとのうへのうへのうへのうへのうへ  
ゆへゆへのうへのうへのうへのうへのうへ

あつとぬもものうへのうへのうへのうへのうへ  
くやとのうへのうへのうへのうへのうへ  
ゆへゆへのうへのうへのうへのうへのうへ

あつとぬもものうへのうへのうへのうへのうへ  
くやとのうへのうへのうへのうへのうへ  
ゆへゆへのうへのうへのうへのうへのうへ

あつとぬもものうへのうへのうへのうへのうへ  
くやとのうへのうへのうへのうへのうへ  
ゆへゆへのうへのうへのうへのうへのうへ

あつとぬもものうへのうへのうへのうへのうへ  
くやとのうへのうへのうへのうへのうへ  
ゆへゆへのうへのうへのうへのうへのうへ

何れもゆりゆりゆりゆり  
幾多のゆりゆりゆりゆり  
かゝるゆりゆりゆりゆり  
へらゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆり

お夕方の雲のこの神にぞ  
かゝるゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり

まろり女まろり 孟ほの  
よ夕の神とことかめれ  
てまゆりてはまよ射  
て向給へお夕青れ狭  
神と不審よまろりゆ  
ふてまゆりてまろり  
えまひぬまろりまろり  
まろり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり





こしとちや  
ぬきまうそ  
あつたのち  
しんじや

風まつてわくづれぬや  
由縁の初風もあはれ  
まづこゝろのあまらふ  
くづくしうらなふ

細心のこころをわらふ  
ととととととととととと  
んととのまふねまふね  
あつたのちまふねまふね  
ととととととととととと

まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね

まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね

まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね

まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね

まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね

まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね

まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね

まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね

まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね

まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね

まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね

まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね  
まふねまふねまふね



おまのれは法とてはさよよめぬとてなれど中よりうらましくそとく妻方の心中  
とくまうり 孟今八思されい不都合とて

いあかんまめとて  
細むらりのまをり保の  
かまうり何とてまをり  
一とまめとてまをり  
いし夕妻方のまをり  
罪日保 保いりあま  
ひてあてあまをたの  
そのこ

あまのれは法とてはさよよめぬとてなれど中よりうらましくそとく妻方の心中  
とくまうり 孟今八思されい不都合とて

いあかんまめとて  
細むらりのまをり保の  
かまうり何とてまをり  
一とまめとてまをり  
いし夕妻方のまをり  
罪日保 保いりあま  
ひてあてあまをたの  
そのこ

あまのれは法とてはさよよめぬとてなれど中よりうらましくそとく妻方の心中  
とくまうり 孟今八思されい不都合とて

いあかんまめとて  
細むらりのまをり保の  
かまうり何とてまをり  
一とまめとてまをり  
いし夕妻方のまをり  
罪日保 保いりあま  
ひてあてあまをたの  
そのこ

いあかんまめとて  
細むらりのまをり保の  
かまうり何とてまをり  
一とまめとてまをり  
いし夕妻方のまをり  
罪日保 保いりあま  
ひてあてあまをたの  
そのこ

いあかんまめとて  
細むらりのまをり保の  
かまうり何とてまをり  
一とまめとてまをり  
いし夕妻方のまをり  
罪日保 保いりあま  
ひてあてあまをたの  
そのこ



いしん  
 ちんちん  
 ちんちん  
 ちんちん

あやのいしんちんちんちんちんちんちんちん  
 三葉のふみの風は  
 めしーのよきとあまに  
 ひめまのよきとあまに  
 のまのよきとあまに  
 ひめまのよきとあまに  
 のまのよきとあまに  
 ひめまのよきとあまに  
 のまのよきとあまに  
 ひめまのよきとあまに  
 のまのよきとあまに

あやのいしんちんちんちんちんちんちんちん  
 三葉のふみの風は  
 めしーのよきとあまに  
 ひめまのよきとあまに  
 のまのよきとあまに  
 ひめまのよきとあまに  
 のまのよきとあまに  
 ひめまのよきとあまに  
 のまのよきとあまに  
 ひめまのよきとあまに  
 のまのよきとあまに

あやのいしんちんちんちんちんちんちんちん  
 三葉のふみの風は  
 めしーのよきとあまに  
 ひめまのよきとあまに  
 のまのよきとあまに  
 ひめまのよきとあまに  
 のまのよきとあまに  
 ひめまのよきとあまに  
 のまのよきとあまに  
 ひめまのよきとあまに  
 のまのよきとあまに

あやのいしんちんちんちんちんちんちんちん  
 三葉のふみの風は  
 めしーのよきとあまに  
 ひめまのよきとあまに  
 のまのよきとあまに  
 ひめまのよきとあまに  
 のまのよきとあまに  
 ひめまのよきとあまに  
 のまのよきとあまに  
 ひめまのよきとあまに  
 のまのよきとあまに



それの娘とや  
死ぬる娘とあつた  
とくとうとあまのそと  
よわり

もわりぬい  
細ひんくはつたよ  
しきくくくくく  
さくくくくく  
まりよくくく  
あまのそと  
よわり

あつてくくく  
只の女房くくく  
あつてくくく  
あつてくくく  
あつてくくく

あつてくくく  
あつてくくく  
あつてくくく  
あつてくくく  
あつてくくく

あつてくくく

あつてくくく

あつてくくく

あつてくくく

あつてくくく

あつてくくく

あつてくくく

あつてくくく

あつてくくく

あつてくくく

あつてくくく

あつてくくく

あつてくくく

あつてくくく

あつてくくく

あつてくくく

あつてくくく

あつてくくく

あつてくくく

あつてくくく

あつてくくく

ちねらふけざ  
孟夕芳のうたととのり  
内府の述懐一もあ  
いふるなつてこころ  
つてこころよきこと  
なす

そのつらごもあつちか  
細内府の御を以のあ  
みく 師 不調いおん  
一ううぬもあつち  
よらごりつてつら  
しむあつちあつち  
細かよのれむとめと  
まてとてなごらつち悪  
まてし孟夕芳の河内府の  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち

あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち

あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち

を角つひそのん  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち

あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち

あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち

あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち

あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち

あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち

あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち

あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち

あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち  
あつちあつちあつち



